

## 7月 校長メッセージ

「せっかくオリンピック・パラリンピックが開催されるので、オリンピック・パラリンピックから何かを得て欲しい」という話をしますが、その前に始業式でお話した火星のヘリコプターのその後を少しだけ話します。インジェニュイティは4月19日に初飛行に成功し、その後9回飛行実験を繰り返しています。NASAのホームページやYouTubeで飛行実験の様子を見ることができますので、興味がある人は見てください。NASAのホームページは本当に面白いです。NASAをはじめ海外の研究機関のホームページは、分かりやすいし、多くの情報や知識を得ることができるので、ぜひとも活用しましょう。

今回の東京オリンピック・パラリンピックはパンデミック状況下で開催される初めてのケースです。果たして開催できるのか、本当に開催してよいのか、と散々議論されてきました。歴史上、重大な被害があったパンデミックはいくつもあります。1300年代のヨーロッパで起きた黒死病、ペストと考えられている感染症によるパンデミックでは、ヨーロッパの人口の三分の一から四分の一、数千万人の人が死亡したと推定されています。背景にはモンゴル帝国がユーラシアを統一し、東西交流が活発化したからと言われていました。20世紀以降においては、1918年より始まるスペイン風邪によるパンデミックがあり、やはり世界で数千万人の人が死亡しました。背景には、第一次世界大戦の軍隊の移動があると言われていました。今回の新型コロナウイルスでは現在感染者数累計約2億人、死亡者数400万人を超えました。そして東京オリンピック・パラリンピックで約9万人が来日すると言われていますが、過去、感染症の拡大は人間の移動の広がりとともに起きていることから、感染拡大をどうやって抑えるのかについては、不謹慎な言い方になりますが、人類史上初めての壮大な実験が行われていると考えてよいでしょう。感染症拡大を完全に抑制することができれば、歴史に残る偉業と言われるに違いありません。皆さんの中には医学や薬学を目指している人も多いため、感染抑止についてぜひお考えいただきたいと思います。

ところで、皆さんはオリンピック憲章をお読みになったでしょうか。オリンピック憲章そのものは長いので、憲章の最初の部分のオリンピックの根本原則はぜひお読みください。日本語に訳したものではなく、ぜひ英文でお読みください。人類がこれまで到達した理想を、とてもすっきりしていて、かつ力強い英文で表現していると思います。私たちが暮らしているこの日本においては、人のあるべき生き方、社会のあるべき姿といった「理想」が語られることがほとんどありません。解決が困難な対立、経済効率、費用対効果といった現実流されて、経済格差の拡大、社会的な分断と様々な差別の顕在化ばかりが目につくようになっていきます。オリンピック憲章の根本原則は、こうした悲しむべき日本の現実と真っ向から対立するものに私には思えます。オリンピック・パラリンピックから私が皆さんに得て欲しいことを2点お話ししました。もちろんこの2点以外にもオリンピック・パラリンピックを観戦し、活躍するアスリートたちを応援するいろんな切り口がありますので、せっかくオリンピック・パラリンピックが開催されるので、いろんな視点でオリンピック・パラリンピックから学んで欲しい、何かを得て欲しいと思います。